

製品名: TIF1 α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18928**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	117kDa

抗原情報

遺伝子名	TRIM24
別名	TRIM24; RNF82; TIF1; TIF1A; Transcription intermediary factor 1-alpha; TIF1-alpha; E3 ubiquitin-protein ligase TRIM24; RING finger protein 82; Tripartite motif-containing protein 24
遺伝子 ID	8805.0
SwissProt ID	O15164
免疫原	抗血清はヒト TRIM24 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1001-1050

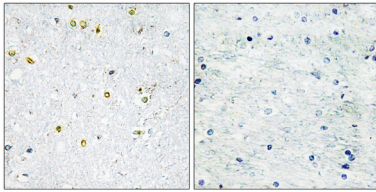
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、エストロゲン、レチノイン酸、ビタミン D3 受容体など、いくつかの核内受容体の活性化機能2 (AF2) 領域との相互作用を介して転写制御を媒介する。このタンパク質は核小体に局在し、クロマチンおよびヘテロクロマチン関連因子と関連すると考えられている。このタンパク質は TRIM (三者モチーフ) ファミリーのメンバーである。TRIM モチーフは、3つの亜鉛結合ドメイン (RING、B ボックスタイプ 1、B ボックスタイプ 2) とコイルドコイル領域を含む。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの選択的スプライシング転写バリエーションが記載されている。[RefSeq 提供、2008年7月]、疾患: TIF1に関連する染色体異常は、甲状腺乳頭癌 (PACT) の原因である[MIM:188550]。転座 t(7;10)(q32;q11)と RET。この転座により、TIF1/RET (PTC6) ががん遺伝子が産生される。機能: in vitro において、エストロゲン受容体の AF2 活性化ドメインと選択的に相互作用する。DNA 結合型エストロゲン受容体との結合には、エストラジオールの存在が必要である。PTM: DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化される。類似性: プロモドメインを1つ含む。類似性: PHD 型ジンクフィンガーを1つ含む。類似性: RING 型ジンクフィンガーを1つ含む。類似性: B ボックス型ジンクフィンガーを2つ含む。サブユニット: CBX1 および CBX3 と相互作用する (類似性による)。NR3C2 と相互作用する。、

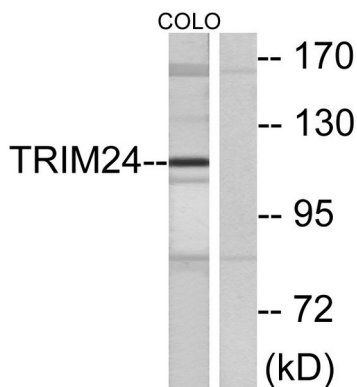
研究分野

シグナル伝達

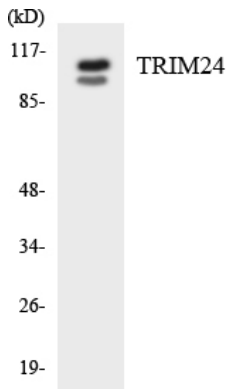
画像データ



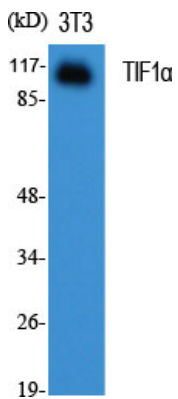
TRIM24 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



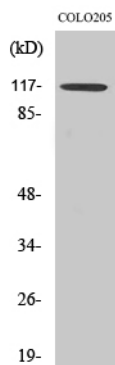
COLO 細胞ライセートの TRIM24 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



TRIM24 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



TIF1α ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析



COLO205 細胞の TIF1α ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いたウェスタンブロット解析。二次抗体は 1: 20000 希釈。